

はなまきし おおはさままち

岩手県 花巻市大迫町で

一緒に
ぶどう栽培を
しましょう

～日本ワイン好きですか？～

大迫ぶどう産業振興協議会

ぶどう栽培が拡大され、それからおよそ70年

いわてけん はなまきし おおはきままち

岩手県花巻市大迫町に、新たにぶどう栽培に取り組む新規就農者が4名誕生しました。(平成28~29年度。うち1名は法人)

さとうなおと 佐藤直人さん(平成28年就農)、たかはしほ 高橋志保さん(平成29年10月就農)、せきねけい 堰根慶さん(平成29年10月就農)のお三方に、なぜぶどうを選んだのか、なぜ大迫で就農したのか等、素朴な疑問についてお伺いしました。

(聞き手: 葡萄が丘農業研究所 工藤所長、就農支援コーディネーター 佐々木、会場: レストランバルドルフ)

なぜぶどう栽培? ……ワイン好きが高じて

工藤 みなさんワインから入った感じだね。佐藤さんも世界のワインを飲んで歩いて。入り口はワインのおいしさから、そして自分で作ってみたいと。

堰根 昔、レストランにいたのでソムリエになろうかなと思ったけど、どういう訳かぶどう農家に(笑い)隣町にエーデルワイン(注1)という大きなワイナリーがあって品質も良くて。となると田舎だし農家だしワインづくりへ。

高橋 前職の飛行機に乗る仕事の時に、海外でワインを飲んで。そこからワインスクールに通ってソムリエ資格は取ったけど、できたものを飲んでウンチクを言うのではなくて、自分でつくってみたいなあって興味がわいて。花巻出身だけど、地元にはぶどう畑がありワイナリーがある価値に気づいていなかったのですが、ちゃんと考えてみたら足元にあるじゃないかって。

工藤 今年で70年近い歴史があるまちだからね。佐藤さんも花巻縁故だけど?

佐藤 正直、こちらに帰ってくるつもりはなかったのですが、圃場を探している時期にグリーン・ツーリズム(注2)のイベントが花巻であって来てみたら、初期投資が少なくて始められる圃場を紹介されて。高齢化とか後継者がいないとか、圃場を手放す人がいて。

工藤 初期投資の低さは大事だよな。

佐藤 こちらでの生活の基盤を持っていなければ最初の数年はどうしても赤字ですよ。それに対する資金を確保していないと。

工藤 生活にそんなにお金がかからないけど、初期投資が抑えられるメリットは大きいね。

大迫を選んだきっかけ ……エーデルワイン

堰根 もちろん、隣町だから。自分の住んでいるところでやってもいいけど、ぶどうを作っていないからノウハウがない。仲間もいない。そこが一番ですね。

工藤 大迫だと、ぶどう仲間(農家)は116戸いるからね。

高橋 エーデルワインがあるから。素人なので教えてもらえる環境があって、そういう人たちがいるところじゃないと。

工藤 エーデルワインの畑に勉強に来ていたよね?

高橋 8~9年前に、生産者ワインのイベント(注3)に来て、やりたいと。でも畑を借りる段階までには至らなかった。

工藤 大迫という町のイメージはどうでした?

高橋 神楽とワイン。息子が神楽が大好きで、毎月1回神楽の日(注4)に来ています。早池峰山と神楽のイメージ。そしてワインもあって資源があるなあ~って。

佐藤 1年間みっちり実習(注5)できたのがよかった。農業の「の」の字も知らずに来たのに。あと、いいタイミングで花巻市がクラフトワイン・シードル特区(注6)をとった。起業するハードルは下がった。いわてワインアカデミー(注7)も開設になった。自分にとっては追い風が吹いてるなと感じた。地元の人と交流しながら。ワインをつくるなら食事とコラボレーションしないと。これから考えていく。

高橋 志保さん 42歳

平成29年10月就農
30aの醸造用ぶどうを栽培 花巻市出身



佐藤 直人さん 57歳

平成28年3月に就農
現在70aの醸造用ぶどうを栽培
花巻市出身。静岡県から大迫町へ移住

堰根 慶さん 30歳

平成29年10月就農
45aの醸造用ぶどうと10aの生食用ぶどうを栽培
花巻市東和町出身



大迫に不足すること

高橋 大迫って全然知られていない。ワイン産地って知られてない。「おおはさま」って読めない。ワインフェスティバル(注8)もやってるけど、大迫が産地なんだよってアピールしていく力をつけないと。

堰根 希望なんですけど、まず交通の便。ワイン飲みたいじゃないですか。でも車で来れないし。あと農作業の拠点がほしい。大迫地域に畑があるだけで家がないんです。午前中に来て畑仕事して、ご飯食べるところがない。

高橋 それ思う！

堰根 お弁当買ってきてさてどこで食べる？軽トラのなか狭いし。休憩スペース、トイレとか。みんなが集まってご飯食べたり。

高橋 いいよね。そういうの！

佐藤 地域の集会所？

佐々木 「かんだハウス」というのができました。堰根さんが言っていた、人が集まることを目的に、地域おこし協力隊が設立したので、ぜひご活用ください。(注9)

ぶどう栽培ピーク時の生活はハード

佐藤 去年は、6～8月のお盆前まで、朝4時起きで5時から畑。昼は1時間半昼寝付き。そして19時の日没まで畑。夜は21時ころ寝ちゃう。忙しいときは畑作業しかしていない。誘引と摘房と摘粒の作業(注10)

工藤 休みは取れます？

佐藤 休暇をとるための休みは、その3か月は記憶にないな。用事があったら休んだけど。自然相手だし、植物は待ってくれないからね。

堰根 昨年までの仕事は夜勤があったので、午後出勤して翌日の午前中に帰ってくるという兼業でした。忙しいときは4時起き5時には畑。なんでこの時間なのかは、日中は暑いから。19時には寝ちゃう。

佐藤 堰根君の行動パターン見て、いつ寝ているんだろうと思ったよ(笑)

佐々木 自分も兼業でやってるけど、子供の行事が入るから大変。でも土日どちらかしかないから、暑かろうが何だろうがやるしかない！

将来設計 様々な経営方針

佐藤 干しブドウとワイン醸造が目標。委託醸造(注11)を経て自家醸造。岩手県工業技術センター(注12)の醸造技術のカリキュラム(注13)を受けて、理屈の面をクリアできたらどうするかを決める。

工藤 ワインを「自分で作りたい」が、あるんだろうね。

佐藤 今考えてみると、醸造技術を身に付けてから栽培を始めたほうがいいんだろうな。

工藤 干しブドウは房ごとの、しかも醸造用品種ぶどうでつくるんだよね。

佐藤 種が熟すまで樹につけておけば気にならないけど。

堰根 兼業でしばらく働きます。会社（ぶどう栽培をする会社へ就職）で働きながら、自分の圃場もします。兼業でいくのは、生活のため。直人さんみたいな専業は、お金がないと。

佐藤 自分もお金があるわけじゃなくて、不労収入があったから。収入源を複数持つのは考えていたほうがいい。自分はここに生活基盤がなかったから。

工藤 100%ぶどうだけでは難しいよね。立場上「大丈夫だよ」と断言したいところだけど。

子育て主婦のモデルケースに！

高橋 私はぶどうで生活していこうとは考えていなくて。私みたいな主婦で小さい子がいてもやる仕事なんじゃないかなと思っていて。まだやってないからかもしれないけど。

和子さん(注14)に栽培指導を受けに通ってみて思いましたが「パートで働きに行くような感覚で、女性でも働けるんだよ!」、そういうモデルにもなりたい。(全員拍手)

冬場はお休みだし、忙しい時期にも波があると思うし、自分で仕事量をコントロールできることは、子育てしている人にとっては魅力があると思う。

私の園地の広さは佐藤さんのような働き方にはならないと思う。忙しければ、子供を連れてきて、工夫しながらやっていけるんじゃないかと？

佐藤 高橋さんの圃場の広さだったら可能だよ。

佐々木 私は大丈夫だと思ってます。高橋さんと同じ声、自分の知人にもいますよ。でも自分で起業する勇気とか相談窓口がなくて断念

工藤 女性に向いていると言われてますね。ぶどう作業は。根気がいる作業

佐藤 摘房・摘粒作業(注10)のとき、妻と母に手伝ってもらうけど、とても丁寧だった。

佐々木 今時、男女って言いたくないけど、そう思う。単純作業・コツコツ作業、男性は苦手。

農業の魅力 ギャンブル説

工藤 堰根君以外は、農家出身じゃないね。

佐藤 自分の場合、ゲーム感覚です。ギャンブルかもしれない。自然って気候も含めて意思がないとか自然のとおりに進むじゃないですか。そこに人間があわせて、その結果の全てが収穫の質と量になって跳ね返ってくる。そこが面白いなって。

一同 ギャンブラー??? (驚き)

工藤 倍率は高くないけどね (爆笑)

佐藤 プラスマイナス0が多いかな。マイナスになるネガティブな方向にいかないように。ギャンブラーにとってはつまんないかもしれないね。

工藤 自分の思ったとおりにやれて、結果に自分が責任を持つことはすごいことだよな。

佐藤 そこが魅力でしょうね。

農業の魅力Ⅱ ストレスフリー

堰根 農業って、ストレスがかからない仕事だと思っていて。なんでかという、みんな優しいじゃないですか、協力してくれて。普通の会社じゃありえないじゃないですか。上司、厳しいし(笑い)、取引先とかあるし。でも農業は丁寧に教えてくれるし。そこが一番

工藤 堰根君、去年の作業のときパラソルと椅子持ってきてさ、リゾート地にいるような格好だったよね。農業やっているようじゃないよね。ビックリしたその感覚(笑い)



高橋 仕事としては、自分で時間をコントロールできるところ。そして最初から最後まで自分が見れるところかな。ぶどうだと10年、20年育てていく、成長させていくところもいいなど。ロマンがあつて。

工藤 よく例えに使うけど、子供とぶどうを育てるときに同じ言葉を使うんです。肥料やりすぎると太るよ肥満児になるよとか。経営にも通じて、ぶどう100本あるのは従業員100人いるのと同じだよ。100本いてもサボる樹もいるから、目くばりが必要だよ、とか。

支援制度のさらなる充実

佐藤 新規就農者の補助80万円(注15)と、空き家バンク(注16) 200万円と農地賃借の補助(注17) 全体で300万円くらい利用させていただきました。

堰根 市内の人には、全く何もなくて。逆に、市内で初めて就農する人にも支援がほしかったですね。はじめてやる方々には、購入支援はあったほうがいいですね。アパート暮らしでは農機具を置く場所もないし。

佐藤 今の農業はクワ1本ではないから、ぶどうならなおさら色々ほしいし、草刈機だとか。クワ1本から貸してくれる自治体があるようだけど、それはいいと思う。ここには大きな農家さんがいるから、貸してくれる支援を行政がしてくれれば。ただじゃなくていいから。

工藤 考えればまだまだ出てきそうだね。佐藤さんはよく色々情報収集したね。

佐藤 自分なりに準備したつもりだし、ここにたどり着く前に他県でいろいろシュミレーションしました。結果、自分の考えもまとめられた。

就農を考える人たちへのアドバイス

工藤 堰根さんみたいにイメージが先行して、やりたいと思ったことがやれるのは、会社勤めが前提だったからかな。高橋さん自身もお仕事されて、ご主人も収入があるからかな。

堰根 いきなり就農は厳しい。農業を起業と考えれば、どこかで修行して「よし、できる。独立!」という流れがスマートだと思う。若い人にやってもらいたい働きながら。

佐藤 やっぱり情報収集。自治体ごとに違うからいろんなところへ。新農業人フェア(注18)とか。就農後の生活のシュミュレーションを考えられるように。収入源を複数持つのは重要だね。

子育ての情報交換する場をつくりたい

高橋 農業をやりたい気持ちはあるけど、実現するための相談窓口がわからない人へ発信してもらいたい。女性の仲間がいたらうれしいし、小さい子を持つ主婦で情報交換もしたい。いつか相談窓口になればいいな。(全員拍手)



左から佐々木善浩、工藤所長、高橋志保さん、堰根慶さん、佐藤直人さん

編集後記

高齢化や後継者不在など、ぶどう栽培を取り巻く環境は厳しい状況です。

しかし、3人のぶどう栽培に対する思いは前向きでした。

これから始まる農業経営への不安より、やる気が勝っているようで、頼もしく感じた次第です。

この懇談で、支援が十分でないところもわかりましたので、今後検討していきます。

第2弾の懇談は「自分たちのワイン」を飲み交わしながら語り合える日を楽しみにしています。

ありがとうございました。

主な支援体制（大迫ぶどう産業振興協議会）

葡萄が丘農業研究所 技術支援の強い味方

農業生産に関する試験研究等を行い、農業者の生産技術の向上と所得向上による生活の安定に役立てるため設立しました。

葡萄が丘農業研究所長が「ぶどう塾」の開催や、ぶどう農家の相談に地域内を駆けめぐっています。

葡萄が丘農業研究所長 工藤 英夫

プロフィール

平成28年度から現職。前職は岩手県職員で、農業を普及する技術の専門員でした。ぶどう栽培が専門で、県内でその名を知らぬ人はいないほどの、ぶどう栽培のスペシャリスト



就農支援コーディネーター 就農相談窓口と就農サポート

ぶどう栽培技術や資金制度などの応援はもちろん、見知らぬ土地で就農する方への住居などの生活面もフォローし、親身に寄り添う相談役として「就農支援コーディネーター」を5人配置しています。

就農者として定着するために、経営安定までサポートします。

就農支援コーディネーター 佐々木 善浩

プロフィール

花巻市職員（大迫総合支所地域振興課）ですが、自身も醸造用ぶどうを栽培。旧大迫町時代にはワイン醸造の研修経験もあり、栽培から醸造まですべての相談に対応できる、頼もしい存在



ぶどう塾 技術と知識を学ぶ

技術と経験の基礎となる知識を、習得する場です。月に1度、開催しています。

- ◆講師：葡萄が丘農業研究所長 ◆座学：10～2月（毎月第3水曜日の夜間を予定）
- ◆受講料：無料 ◆実技：3～9月（毎月第3土曜日の午前中を予定）

地域の次世代を担うぶどう栽培者が集いあひ、葡萄が丘農業研究所長の指導のもと、切磋琢磨しながら、何でも相談しあえる仲間づくりの場ともなります。

ぶどう生産者とともにワインを楽しむ夕べ 醸造用ぶどう農家の発表会？！ （主催：(株)エーデルワイン）

(株)エーデルワインの原料の一部は、大迫地域の醸造用ぶどう農家さんが丹念に、そして情熱をもって作っているぶどうを使用します。この醸造用ぶどう栽培をしている農家さんごとに、(株)エーデルワインが特別醸造したワインを飲み比べすることができるイベントが、毎年3月に開催されます。戸別につくるからこそ同じ品種でも違う味わいになるワインに、毎年ファンが集い、ぶどう農家さんと語らいます。ぶどう農家さんにとっても、その年の成果が結実する楽しみな会でもあり、翌年への意欲にもつながる大切なイベントです。

- ◆時期：毎年3月 ◆場所：大迫ふるさとセンター
- ◆会費：お一人4,000円 ◆無料送迎バスが運行されます。（要予約）

- | | | |
|-----|-----------------|---|
| 注1 | (株)エーデルワイン | 1962年創業の大迫地域にあるワイナリー。東北最大手。原料は大迫地域を中心とした岩手県産を使用 |
| 注2 | グリーン・ツーリズム | 農山漁村で、農業・農村体験をすること。 |
| 注3 | 生産者ワインイベント | ぶどう生産者とともにワインを楽しむ夕べ 上記参照 |
| 注4 | 神楽の日 | 世界文化遺産「早池峰神楽（はやちねかぐら）」の上演会。毎月（1、8、12月は除く）第2日曜日に開催 |
| 注5 | 実習制度 | 「花巻市新規就農希望者研修支援事業」農業研修を受け入れた農家等へ支援する制度 |
| 注6 | 花巻クラフトワイン・シード特区 | ワイン等を製造する際の、最低製造数量基準が緩和されます。 |
| 注7 | いわてワイン生産アカデミー | 岩手県は「ワインヒルズ推進事業」を実施。この一環として、起業に必要な基礎的な知識を習得するために開催 |
| 注8 | ワインフェスティバル | 「日本ワインフェスティバル花巻大迫」約40近いワイナリーが参集し開催 |
| 注9 | かんたハウス | 花巻市地域おこし協力隊が起業。ぶどう栽培を通じた仲間が集いあえる施設。だれでも利用可能 |
| 注10 | 誘引、摘房、摘粒 | 誘引：伸びる枝を棚に結束する作業、摘房：多すぎる房を取る作業、摘粒：多すぎる粒を抜く作業 |
| 注11 | 委託醸造 | (株)エーデルワインの原料となるぶどうを栽培している農家が利用できる制度。できたワインを楽しむのは上記夕べ |
| 注12 | 岩手県工業技術センター | 工業製品から食品まで、様々な製品の技術支援機関 |
| 注13 | カリキュラム | 岩手県工業技術センターでは、醸造技術の知識と技術が習得できる。 |
| 注14 | 高橋和子 | 花巻農協ぶどう生産部会大迫支部醸造研究会会長。醸造用ぶどうを栽培 |
| 注15 | 新規就農補助 | 「花巻市新規就農者支援事業」農業用機械や資材費等への補助事業 上限80万円 |
| 注16 | 空き家バンク | 「花巻市空き家バンク」契約が成立した場合、改修費用の助成制度がある。 |
| 注17 | 農地賃借補助 | 「花巻市新規就農者支援事業」農地への賃借料の補助 上限2万円（年） |
| 注18 | 新農業人フェア | 大手広告代理店等が主催する、就農希望者の相談会。花巻市では仙台・東京会場等に参加予定 |